

# 2017年度第1四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2017年5月12日

# I . EAJ事業内容のご説明

# EAJとは？

日本エマージェンシーアシスタンス(EAJ)は、お客様が海外へ渡航されたり海外で生活される折に、何かでお困りになったり、何かしらの支援が必要となった際に、それが世界中の「いつ、どこであっても」、アシスタンスというサービスの提供を通じて事態を解決へと導いてゆく会社です。

例えば、お客様が海外渡航中に病気や怪我に遭われた場合、たとえご本人が言語、医療制度さらには社会環境面等でのギャップで対応できなくても、EAJが適格な医療機関の紹介、診療予約、通訳提供といった受診支援を行うことにより、お客様は、信頼できる水準の医療サービスを安心して受けることができます。

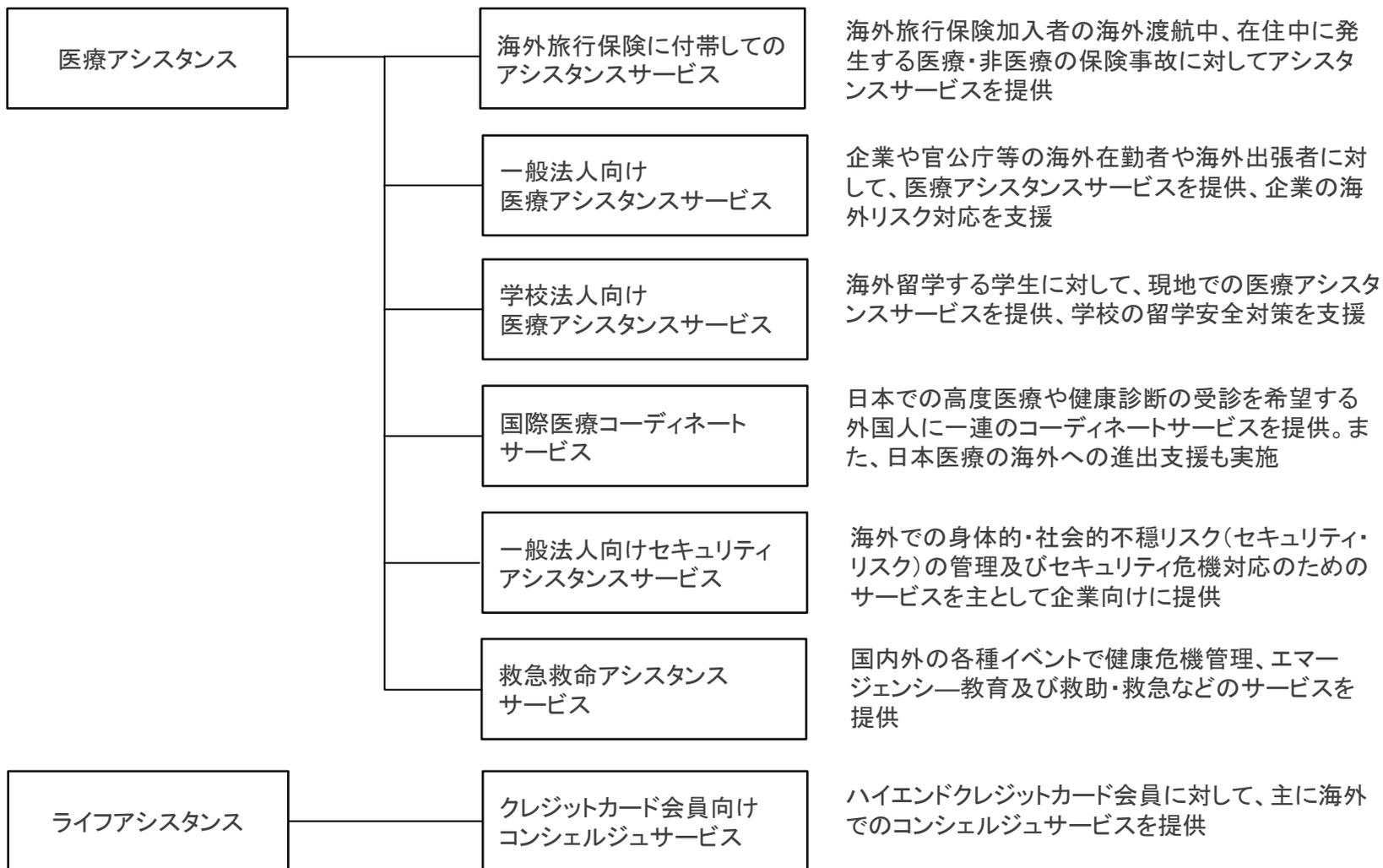
また、海外のレストランやエンターテインメントの予約、あるいはお買い物支援などのコンシェルジュ・サービス(ライフアシスタンスサービス)の提供により、海外での時間を「より楽しく」、「より快適に」お過ごし頂くためのお手伝いもしております。

EAJは、このような医療を始めとする緊急対応アシスタンスやライフアシスタンスの提供を通じて「アシスタンスでお客様の世界を広げる」ことをミッションに、24時間365日休むことなく活動しています。

# 当社事業

## 事業

## 展開する主なサービス概要



## EAJのネットワーク網

- 7ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、フランス、バングラデシュ）
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は310名
- 世界各国で提携関係にある約12,500件の医療機関と約2,600件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。

## EAJ ビジネス4つの強み

### ① ジャパンスタンダードのサービス

- ・ジャパンスタンダードとは、品質には絶対に妥協しないというコミットメントと日本固有の思いやりの心が融合して作り出される高度のサービスであるとEAJは考えます。
- ・日本の心をもってお客様の期待を良く理解し、異文化への造詣も深いコーディネータが経験を積んだ専門家の適切な支援を受けてサービス提供します。
- ・「医療渡航支援企業(※1)」として訪日外国人にも「思いやりの心」に根ざした日本標準のサービスを提供するインバウンド・アシスタンスのリーディングカンパニーです。

### ② プロフェッショナルクオリティ

- ・厳しいトレーニングと実務経験に裏打ちされたスキル、そして高い使命感を有するコーディネータが世界各地で24時間365日スタンバイのうえ、お客様の期待を超えるサービスの提供に力を尽くします。医療アシスタンスでは、国際的な医療や保険に関する幅広い知識を持った多言語対応のコーディネータが対応します。ライフアシスタンスでは、国際的なライフ・スタイルのニーズに関する広い知見と高いコンシェルジュマインドを備えた多言語対応のコーディネータが対応します。

※1 「医療渡航支援企業認証制度」は、日本政府の成長戦略の一環として、来日して治療を受けようとする外国人が安心して医療サービスに関する相談や受診の支援が受けられるよう、一定の基準を満たした質の高い支援サービスを提供できる企業に日本政府が”お墨付き”を与える制度です。

## EAJ ビジネス4つの強み

### ③ワンストップでアシスタンスを提供

- ・緊急第一報の受付から、医療機関での受診、診療経過のモニター、さらには帰国搬送まで、必要なアシスタンスを連続した同一のプロセスで提供することにより高度に安定した品質のサービスを提供することができます。
- ・セキュリティアシスタンスと医療アシスタンスをセットで提供することができ、これにより医療とセキュリティという企業にとっての二大ビジネスリスクへの統合的ソリューションを可能にします。

### ④グローバルネットワーク

- ・世界中の医療機関及び役務提供機関との提携を通じて構築された広範で信頼性の高いサービスネットワークが「世界中のいつ、どこであっても」提供可能なアシスタンスを実現しています。
- ・軍事・諜報・公安といった領域での高度なプロフェッショナルが必要とされるセキュリティ関連サービスも、国際的な人脈に基づくセキュリティ専門会社との業務提携を通じて提供されています。

## 女性の活躍について

EAJでは多数の女性が活躍しています。政府が提唱する「すべての女性が輝く社会作り」に賛同し、働く女性を応援し、今後も多くの女性に活躍の場を提供していきます。

### ●当社の特長

#### ▶女性社員が多い

基幹業務であるアシスタンスコーディネーターには女性が多いこともあり、女性社員比率は68% (2017年度3月末データ)です。

#### ▶女性の管理職が多い

女性管理職比率は52.6% (2017年度3月末データ)、取締役が1名就任しています。

#### ▶女性のワークライフバランスを支援

育児休業制度 (2016年度利用者は6名) と育児短縮勤務制度 (2016年度利用者は14名) を設け、仕事と育児を両立できるよう環境を整えております。



## Ⅱ. 2017年度第1四半期連結累計期間の決算報告

## 第1四半期の決算業績サマリー

- 売上高 664百万円(前年同期: 742百万円)  
営業利益 11百万円(前年同期: 58百万円)  
経常利益 6百万円(前年同期: 45百万円)  
当四半期純利益 4百万円(前年同期: 28百万円)
- 売上高は664百万円と前年を下回った。
  - 海外旅行保険の付帯サービスに関して昨年の一部契約の更新見送りの影響が出たこと、官公庁受注ビジネスの契約額が減額になったことより医療アシスタンス事業の売上高は前年同期比で13.7%減少した。
    - ✓ 2017年の海外出国者数は前年比で8.8%増加したものの、昨年の一部契約更新見送りの影響が出てアシスタンスサービスに関する売上高は前年度を下回った。
    - ✓ 官公庁受注ビジネスの契約額が前年比で減少し、売上が前年度を下回った。
    - ✓ 法人・大学・セキュリティ売上は好調であった。
    - ✓ 外国人患者受入事業は堅調であり、前年比で売上が伸びた。
  - ライフアシスタンス事業の売上高は前年同期比で8.9%増となった。
    - ✓ 提携会社の営業拡大に貢献し、サービス提供数が増加したため増収増益であった。
- 費用に関しては、売上の減少に合わせた費用の削減はしておらず、営業利益は11百万円(前年同期比80.4%減)、経常利益は6百万円(前年同期比86.0%減)となった。

## 第1四半期および直近のトピックス

- **海外危機管理へのニーズが増加し、法人売上・大学売上が好調**
  - 海外におけるテロや紛争などのセキュリティリスクの高まりに対し、企業や団体におけるセキュリティリスクに対するニーズが高まり当社の売上も増加した。
  - 4月からは独立行政法人国際協力機構(JICA)と海外セキュリティ・サービスに関する契約を締結した。
  - 「海外危機管理に医療とセキュリティの両アシスタンスサービスが有益」という認知度が高まっており、顧客のニーズに応じたサービスを提供することで、医療・セキュリティ両アシスタンス事業の主要顧客である法人・大学に対する売上は前年比で大幅に増加した。
- **インバウンドビジネスは堅調に推移**
  - 医療ツーリズムは、これまでの実績、1月に「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」28医療機関のうち22医療機関から医療渡航支援企業として指定されたことを追い風に、海外からの外国人患者受入事業は着実に増加。
  - 訪日外国人が増加するにつれて、日本の医療機関へ患者を緊急対応で手配するケース及び問合せ件数が増加し、緊急対応型アシスタンスのケース発生数も増加。
- **救急救命アシスタンスで新規ビジネスを開始**
  - 社内外の救急救命士・看護師のリソースを利用、3月に独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)から平成29年度三次元物理探査船に係る医療支援業務、および現場医療スタッフの提供業務を受託した。

## セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、海外旅行保険の付帯サービスに関して昨年の一部契約の更新見送りの影響が出たこと、官公庁受注ビジネスの契約額が減額になったことより営業利益は減少した。
- 医療アシスタンス事業における外国人患者受入に係る売上は増加した。
- ライフアシスタンス事業は増収増益であった。

(単位:百万円)

	前年同期		第1四半期実績	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	635	126	548	78
ライフアシスタンス事業	106	28	116	32
調整額※	-	△96	-	△99
セグメント合計	742	58	664	11

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

## 2017年第1四半期決算連結貸借対照表

- ライフアシスタンス事業の基幹システムを刷新したため無形固定資産が増加した。
- 立替金準備のため借入を増加させた。

(単位:百万円)

	2016末 (構成比)	第1Q実績 (構成比)
資産合計	2,079 (100%)	2,265 (100%)
流動資産	1,814 (87%)	1,969 (87%)
固定資産	264 (13%)	296 (13%)
負債合計	1,357 (65%)	1,554 (69%)
流動負債	1,294 (62%)	1,458 (64%)
固定負債	63 (3%)	96 (4%)
参考:借入金残高	767 (37%)	908 (40%)
純資産合計	721 (35%)	711 (31%)

### 資産

- ライフアシスタンス事業の基幹システムを刷新し、無形固定資産が増加
- 医療アシスタンスサービスに関わる立替金の回収

### 負債

- 立替金のため借入を実施

### 純資産

- 当期純利益が増加、配当の支払い
- 円高による為替換算調整勘定の減少

## Ⅲ. 各種施策の取組み状況のご説明

# 2017年全社重点事業目標の遂行実績

## 全社重点事業目標

## 遂行実績

仕事の質の追求

**位置情報確認システムを利用した新システムの開発に着手**

海外危機管理支援のための新ツールを上期に投入予定。

社内コミュニケーションの改善

**サービス品質の高度化・平準化を図る**

本社と海外センターとの人材交流を進め、情報交換・ノウハウの共有化を推進。

売上高営業利益率6%の確保

**第1Qは出遅れたものの通期では予算達成を見込む**

17～22ページを参照

営業活動の強化による既存事業売上向上

**営業力強化の成果が出ており、第2四半期から売上に寄与**

法人売上・大学売上が好調、その他既存事業に関連する新規取引先の開拓も順調である。

# 各種施策に関する主要NEWS RELEASE

## 平成29年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金に係る補助事業者の公募採択に関するお知らせ

## 平成29年度三次元物理探査船運航に関し医療支援業務および現場医療スタッフを提供

NEWS RELEASE



2017年4月3日

各位

会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 吉田 一正  
(コード番号: 6063 東京証券取引所JASDAQ)

### 平成29年度産油国石油精製技術等対策事業費補助金に係る補助事業者の公募採択に関するお知らせ

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社(略称:EAJ、本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉田一正、URL:<https://emergency.co.jp/>)は、このたび、平成29年度「産油国石油精製技術等対策事業費補助金(石油天然ガス権益・安定供給の確保に向けた資源国との関係強化支援事業のうち産油・産ガス国産業協力等事業に係るもの)」に係る補助事業者の公募に採択されましたのでお知らせします。

[http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public\\_offer\\_result/1703/170323a/](http://www.enecho.meti.go.jp/appli/public_offer_result/1703/170323a/)

当社が実施する事業の具体的な内容は以下の通りです。

- アラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国と我が国の医療分野における協力強化事業

当社は現地における日本の医療紹介・診療、日本への患者受入事業、日本とUAEの医療者交流を進めるなど協力強化事業の管理全般を担い、日本の優れた医療サービスの継続的な紹介・移植等を行います。

当社は当該事業に平成23年度から公募採択されており、これまで両国の医療者交流、日本への患者受入、医療教育協力などの支援事業を実施してきました。

平成29年度も今までの経験を生かして本件業務に全力で取組み、アウトバンド事業(医療技術・機器等の輸出)及びインバンド事業(外国人患者の受入サポート等)を増やし、アラブ首長国連邦の医療の高度化に貢献し、同国と日本との関係強化を図ることで、我が国のエネルギー安定供給の確保に貢献いたします。

当社は上記のような国際医療事業を今後も推進することで、アラブ諸国等日本の医療に対する認知度が低い地域との関係作りに尽力し、日本の医療の国際展開を支援いたします。

■本件に関するお問合せ先  
管理部 IR室  
電話:03-3811-8121

以上

NEWS RELEASE



2017年4月7日

各位

会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 吉田 一正  
(コード番号: 6063 東京証券取引所JASDAQ)

### 平成29年度三次元物理探査船運航に関し医療支援業務および現場医療スタッフを提供

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社(略称:EAJ、本社:東京都文京区、代表取締役社長:吉田一正、URL:<https://emergency.co.jp/>)は、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(略称:JOGMEC、本社:東京都港区、理事長 黒木 啓介、URL:<http://www.jogmec.go.jp/>、以下JOGMEC)から平成29年度三次元物理探査船に係る医療支援業務、および現場医療スタッフの提供業務を受託しました。

JOGMEC 様は三次元物理探査船(以下「探査船」という。)を使用した、国内石油・天然ガスの基礎調査を行ってまいります。

当社は調査を安全かつ円滑に進めるために、探査船運航にかかわる包括的な医療支援の提供、および探査船内にある医務室へ医療スタッフを提供し、乗組員の安全・衛生管理、および緊急事態対応を実施します。

業務内容は以下の通りです。

- 探査船運航に係る医療支援業務  
緊急時の円滑な医療搬送を達成するために必要な、緊急搬送計画の策定や搬送支援、および探査船に設置された医療設備や機器の維持管理に関するアドバイスの提供を行う業務

緊急支援については国内外を問わず行うものとし以下の業務を行う。

- 最寄りの医療機関への搬送時の支援
- 医療機関から乗組員の自宅等への搬送時の支援
- 医療搬送時の支払い保証等の実施

- 現場医療スタッフの提供業務

探査船による調査業務を行う際、医療スタッフを探査船に常駐させて以下の業務を行う。

- 探査船の安全管理マニュアルに基づく、船内衛生の管理業務
- 乗組員の傷病の処置、健康管理、予防的医療活動を遂行する業務
- 船内に設置された医療機器や医薬品、および医療廃棄物の管理業務
- 緊急時の初期救急対応、蘇生、容態安定化等の業務

## JICAとセキュリティサービスに関する契約を締結

- 当社はセキュリティリスクに対して事前のリスク回避、危機発生時のサポート、事後の避難や現地医療機関の手配等のセキュリティ・医療アシスタンスに力を入れ、海外進出する法人や大学の危機管理を支援している。
- 4月から独立行政法人国際協力機構(JICA)と海外セキュリティ・サービスに関する契約を締結した

### 背景

- ▶イスラム過激派によるテロ、自然災害、感染症、武力衝突など、数多くのリスクが顕在化し、セキュリティリスクは高まっている。
- ▶テロについて言えば中東や北アフリカのみならず欧米やアジアに拡散して在外邦人もテロの標的になっており、ホームグラウンド型やローンウルフ型と呼ばれる組織をバックにしないタイプのテロが増加している。
- ▶米軍によるシリア攻撃や朝鮮半島情勢の緊迫化など、地政学的リスクが高まっている。



## IV. 業績予想について

## 上期の業績予想修正について

- 第1四半期は既存売上の増加が昨年の一部契約更新見送りと官公庁受注ビジネスの契約額の減少をカバーできなかった。
- 第1四半期の影響を第2四半期だけで解消するには至らない懸念があるため、第2四半期累計期間の業績予想を下記のように修正する。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	1,300	75	67	39	16.02
今回発表予想(B)	1,250	35	27	16	6.51
増減額(B-A)	△50	△40	△40	△23	
増減率(%)	△4%	△53%	△60%	△59%	
(ご参考)前年同期実績 (平成28年12月期第2四半期)	1,334	95	62	40	16.36

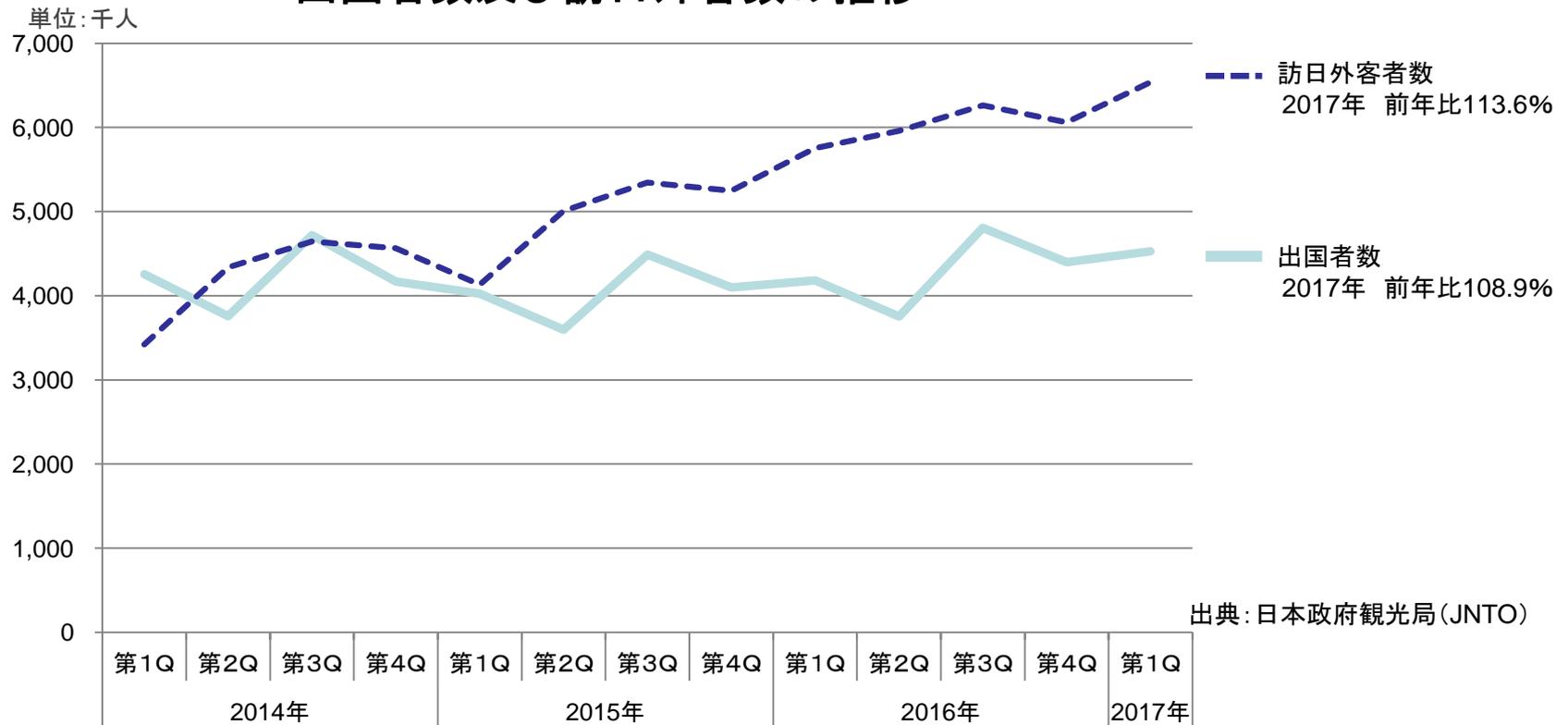
## 2017年の通期業績予想

- |                 |                          |
|-----------------|--------------------------|
| - 売上高           | 2,600百万円(2016年:2,509百万円) |
| 営業利益            | 150百万円(2016年: 150百万円)    |
| 経常利益            | 135百万円(2016年: 118百万円)    |
| 親会者株主に帰属する当期純利益 | 78百万円(2016年: 64百万円)      |
- 通期の業績は当初予想と同程度の売上・利益になると見込んでいる。
  - 第1四半期は出遅れたもののビジネスの拡大基調に変化はなく、第2四半期以降売上・利益は徐々に回復していくと予想。
  - 下ぶれリスクとして、海外における地政学的リスクの高まりにより海外出国者数・訪日外客数が減少したり、為替レートの変動により費用が上昇する可能性はある。

## 海外出国者・入国者数の推移

- 海外出国者数の増加に伴い、医療アシスタンスに対するニーズは増加している。
  - ▶海外出国者数は増加し、第1四半期で前年比8.9%増であった。
  - ▶海外から訪日外客数も堅調で第1四半期で前年比13.6%増であった。

### 出国者数及び訪日外客数の推移



## 第1四半期の減額要因と第2四半期以降の状況

### 第1四半期の前年度からの減収要因

損害保険会社引受業務において  
前年の一部契約更新見送りの影響が出現

3月までの官公庁受注業務の契約額が減額

費用に関して無理な削減は実施  
せず、高レベルの投資を実施

### 第2四半期以降の状況

損保引受会社付帯サービスの拡大を見込み、  
売上の回復を予定

- ・4月からの官公庁受注業務の契約額が増額
- ・新規の官公庁受注業務(JOGMEC)の獲得

- ・高レベルの投資は継続的に実施していく

## 第2四半期以降のリスク要因

- 為替レートに関しては様々な要因が影響するため先行き不透明である。
- 北朝鮮問題など地政学リスクの高まりが業績にダメージを与える可能性もある。
- 医療アシスタンスの品質向上のため先行投資を継続する。

### リスク要因

為替レートが不透明

海外テロ・紛争の発生

「質の追求」のため新規投資

### 第2四半期以降の状況

円安にふれると海外センターコストが上昇し、海外出国者数も減少するため、当社の業績に不利に働く

海外出国者数が減少し、当社業績の減額要因

将来の企業価値向上に結び付くものの、先行投資により一時的なコストアップ原因となる

## VIII. 当社サービスについて

## 海外進出企業・学校法人が抱えるニーズ

- 海外進出企業・学校法人は、海外で起こる様々なリスクに対応しなければならない。
- 海外リスクのマネジメントをプロフェッショナル企業に外注することは選択肢の1つである。

### 法人・学校法人のお客さまが抱える具体的なニーズ

- ▶ 各国現地支社・留学生の要望で、現地病院受診の仕組みを構築しなければならない。世界各国の駐在員・留学生に均一のサポート体制が必要
- ▶ 政情不安な地域で、有事の際に具体的な対応ができる手段を探している。危機対応プランを策定、事前に本社・本校・現地にて共有して、事態に備えたい。
- ▶ 独自に駐在員・留学生向けサービスを検討している。各国の状況に即したサポート体制を提供できる仕組みを、社内・校内に導入したい。
- ▶ 例えばオリンピックで協賛会社として開催前から多くのスタッフを現地に送り、開催期間中にゲストを招待する。危機管理や医療の手厚いサポートを提供できる方法は無いか(※)。
- ▶ 人事・労務・安全管理担当として、政情不安やインフラ不足の地域で、有事の際にどうするべきか、現地の医療情報収集と重症対応時の計画を事前にシミュレーションしておきたい。

### 当社が提供するサービス



医療アシスタンスサービス



セキュリティサービス



場所や期間を特定した医療  
アシスタンスサービス



コンサルティングサービス

※EAIはリオオリンピックで国際的大手メーカーに医療アシスタンスサービスを提供しました。





# アシスタンスで お客様の世界を広げる

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社